

外国人患者の実態把握のためのアンケート調査
全体の回答数・回答率

調査対象	調査方法	調査実施日・期日	対象期間	対象数	未着数	回答数	回答率
京都府内観光地・施設等を訪れた訪日外国人	調査員による聞き取り	伏見稻荷大社	10/30(火)実施	-	-	1,099	-
		嵐山					
		清水寺	10/26(金)実施				
		平等院					
		天橋立					
府内の消防本部	郵送	10/31(水)期日	H29年1~12月	15	0	15	100.0%
		府内の宿泊施設	11/2(金)期日	H29年1~12月	旅館	4,190	347
ホテル	598				48	114	20.7%
簡易宿所	286				7	109	39.1%
会社・団体の宿泊所	3,121				256	499	17.4%
民泊	7				0	7	100.0%
府内の全病院	郵送	10/31(水)期日	H29年10月~H30年9月	178	36	56	39.4%
※外国人患者の受入実績(未収金等)は12/14(金)期日		168	0	114	67.9%		

【訪日外国人を対象とした調査結果】

資料1

①の1. 国籍

国籍	サンプル数		伏見稲荷大社		清水寺		嵐山		平等院		天橋立	
	比率	実数	比率	実数	比率	実数	比率	実数	比率	実数	比率	実数
全体	100.0%	1,099	25.6%	281	28.6%	314	25.8%	283	9.6%	105	10.6%	116
アメリカ	5.1%	56	25.0%	14	16.1%	9	46.4%	26	10.7%	6	1.8%	1
オーストラリア	5.1%	56	44.6%	25	33.9%	19	10.7%	6	0.0%	0	10.7%	6
フランス	8.9%	98	34.7%	34	35.7%	35	13.3%	13	3.1%	3	13.3%	13
イギリス	3.9%	43	30.2%	13	44.2%	19	20.9%	9	0.0%	0	4.7%	2
中国	21.5%	236	32.2%	76	34.3%	81	20.8%	49	12.7%	30	0.0%	0
香港	5.3%	58	15.5%	9	1.7%	1	32.8%	19	24.1%	14	25.9%	15
台湾	13.4%	147	2.0%	3	36.1%	53	17.0%	25	24.5%	36	20.4%	30
韓国	6.9%	76	3.9%	3	9.2%	7	69.7%	53	3.9%	3	13.2%	10
タイ	3.3%	36	19.4%	7	30.6%	11	41.7%	15	0.0%	0	8.3%	3
シンガポール	4.3%	47	14.9%	7	48.0%	23	31.9%	15	0.0%	0	4.3%	2
マレーシア	2.1%	23	21.7%	5	30.4%	7	21.7%	5	8.7%	2	17.4%	4
その他	20.3%	223	38.1%	85	22.0%	49	21.5%	48	4.9%	11	13.5%	30

①の2. 同行人数

人数	サンプル数	
	比率	実数
全体	100.0%	446
1人	22.6%	101
2人	43.3%	193
3人	18.2%	81
4人	9.0%	40
5人	2.9%	13
6人	1.3%	6
7~14人	2.7%	12

<サンプルの概況>

- ・市内5箇所(伏見稲荷大社、清水寺、嵐山、平等院、天橋立)において、1,000人を目的にアンケートを実施した。
- ・同行人数は、2人が最多(43.3%)で、1人(22.6%)、3人(18.2%)の順に多い。
- ・国籍の比率は、中国(21.5%)、台湾(13.4%)、フランス(8.9%)の順に高い。(2017年の「京都府内の訪日外国人宿泊客」の国籍比率に近い)

◆京都府内の訪日外国人宿泊客 内訳表(2017年)

地域	合計	アメリカ	オーストラリア	フランス	イギリス	中国	香港	台湾	韓国	タイ	シンガポール	マレーシア	その他
京都市内	3,527,895	327,798	170,661	115,092	99,468	944,543	131,264	515,550	197,760	53,719	66,876	39,937	865,227
京都市以外の府域	84,165	3,898	728	909	546	16,430	11,947	25,639	6,033	1,529	859	614	15,033
合計	3,612,060	331,696	171,389	116,001	100,014	960,973	143,211	541,189	203,793	55,248	67,735	40,551	880,260
比率	100.0%	9.2%	4.7%	3.2%	2.8%	26.6%	4.0%	15.0%	5.6%	1.5%	1.9%	1.1%	24.4%

②. 今回の旅行について、あなたは旅行保険(クレジットカード付帯保険を含む。)に加入していますか。

国籍	サンプル数		加入している	加入していない	不明
	比率	実数			
全体	76.3%	1,099	838	259	2
アメリカ	33.9%	56	19	37	0
オーストラリア	92.9%	56	52	4	0
フランス	65.3%	98	64	34	0
イギリス	90.7%	43	39	4	0
中国	75.4%	236	178	58	0
香港	89.7%	58	52	6	0
台湾	80.3%	147	118	29	0
韓国	59.2%	76	45	31	0
タイ	66.7%	36	24	12	0
シンガポール	100.0%	47	47	0	0
マレーシア	91.3%	23	21	2	0
その他	80.3%	223	179	42	2

<特徴>

- ・全体の旅行保険への加入率は76.3%(観光庁「訪日外国人旅行者の医療に関する実態調査」(H29年3月)における加入率は73%)
- ・加入率は、国籍別でシンガポール(100%)、オーストラリア(92.9%)、マレーシア(91.3%)の順に高い。

◆観光庁「訪日外国人旅行者の医療に関する実態調査」(H29年3月)

○調査対象:成田国際空港・東京国際空港・関西国際空港を訪れた訪日外国人

○回答数:3,383件

○調査目的:訪日外国人が不慮の怪我・病気になっても安心して日本の医療サービスを受入れる環境を整えるため、訪日外国人の保険加入状況及び医療受診を把握する

<調査結果の抜粋>

旅行中の怪我・病気を補償する保険の加入率73%

②-1. 加入した時期はいつですか。【②で「1. 加入している」と回答した方】

国籍	サンプル数	常時加入		今回の訪日旅行に合わせて訪日前に加入		訪日後、直後(空港等に)に加入		訪日後、旅行中に加入	
		比率	実数	比率	実数	比率	実数	比率	実数
全体	838	31.9%	267	64.3%	539	1.6%	13	2.3%	19
アメリカ	19	52.6%	10	36.8%	7	0.0%	0	10.5%	2
オーストラリア	52	34.6%	18	65.4%	34	0.0%	0	0.0%	0
フランス	64	51.6%	33	48.4%	31	0.0%	0	0.0%	0
イギリス	39	46.2%	18	53.8%	21	0.0%	0	0.0%	0
中国	178	31.5%	56	60.7%	108	6.7%	12	1.1%	2
香港	52	73.5%	7	84.6%	44	0.0%	0	1.9%	1
台湾	118	0.8%	1	95.8%	113	0.0%	0	3.4%	4
韓国	45	4.4%	2	95.6%	43	0.0%	0	0.0%	0
タイ	24	50.0%	12	50.0%	12	0.0%	0	0.0%	0
シンガポール	47	8.5%	4	91.5%	43	0.0%	0	0.0%	0
マレーシア	21	33.3%	7	66.7%	14	0.0%	0	0.0%	0
その他	179	55.3%	99	38.5%	69	0.6%	1	5.6%	10

<特徴>

- ・全体の旅行保険への加入時期は、「今回の訪日旅行に合わせて訪日前に加入」(64.3%)、「常時加入」(31.9%)の順に高く、加入者は95%以上が訪日前に加入している。
- ・「常時加入」の比率は国籍別で、アメリカ(52.6%)、フランス(51.6%)、タイ(50.0%)の順に高い。
- ・「今回の訪日旅行に合わせて訪日前に加入」の比率は、国籍別で台湾(95.8%)、韓国(95.6%)、シンガポール(91.5%)の順に高い。

③ もし、あなたは旅行中に病気やケガをした場合、どのような行動をとりますか。(複数選択可)

国籍	サンプル数	宿泊施設で休む		薬局等で医薬品を買って使う		医療機関を受診する		その他	
		比率	実数	比率	実数	比率	実数	比率	実数
全体	1099	24.0%	264	46.8%	514	51.3%	564	5.0%	55
アメリカ	56	53.6%	30	55.4%	31	58.9%	33	5.4%	3
オーストラリア	56	28.6%	16	50.0%	28	71.4%	40	0.0%	0
フランス	98	12.2%	12	30.6%	30	45.9%	45	14.3%	14
イギリス	43	23.3%	10	30.2%	13	34.9%	15	20.9%	9
中国	236	16.5%	39	51.7%	122	51.7%	122	0.4%	1
香港	58	37.9%	22	79.3%	46	39.7%	23	0.0%	0
台湾	147	19.7%	29	56.5%	83	49.7%	73	1.4%	2
韓国	76	38.2%	29	51.3%	39	47.4%	36	0.0%	0
タイ	36	25.0%	9	47.2%	17	27.8%	10	13.9%	5
シンガポール	47	46.8%	22	25.5%	12	34.0%	16	0.0%	0
マレーシア	23	8.7%	2	43.5%	10	52.2%	12	8.7%	2
その他	223	19.7%	44	37.2%	83	62.3%	139	8.5%	19
加入	838	23.9%	200	48.8%	409	52.7%	442	3.6%	30
非加入	259	24.7%	64	39.8%	103	47.1%	122	9.7%	25

<特徴>

- ・全体では、旅行中に病気やケガをした場合において、「医療機関を受診する」(51.3%)と「薬局等で医薬品を買って使う」(46.8%)がほぼ同じ比率であった。
- ・「医療機関を受診する」という回答者について、旅行保険の加入別の比率は「加入している」(52.7%)、「加入していない」(47.1%)となり、大きな差は見られない。
- ・「医療機関を受診する」比率が他の選択肢よりも高い国籍は、アメリカ、オーストラリア、フランス、イギリス、マレーシア。
- ・「薬局等で医薬品を買って使う」比率が他の選択肢よりも高い国籍は、香港、台湾、韓国、タイ。
- ・「宿泊施設で休む」比率が他の選択肢よりも高い国籍はシンガポールのみ。

↑ ○ 訪日外国人の疾病への対応については、医療機関に加え、薬局に対する対策が有効

③-1. どのように医療機関を探しますか。【③で「3. 医療機関を受診する」と回答した方】(複数選択可)

国籍	サンプル数	加入している保険会社		宿泊施設等のフロント		旅行ガイドブック		日本在住の家族や友人等		インターネット		119番(緊急通報用電話番号)		その他	
		比率	実数	比率	実数	比率	実数	比率	実数	比率	実数	比率	実数	比率	実数
全体	564	46.5%	262	31.7%	179	7.8%	44	9.4%	53	31.7%	179	12.6%	71	10	
アメリカ	33	33.3%	11	36.4%	12	0.0%	0	18.2%	6	57.6%	19	39.4%	13	0	
オーストラリア	40	35.0%	14	57.5%	23	2.5%	1	7.5%	3	40.0%	16	12.5%	5	0	
フランス	45	77.8%	35	26.7%	12	4.4%	2	11.1%	5	8.9%	4	4.4%	2	2	
イギリス	15	46.7%	7	66.7%	10	0.0%	0	0.0%	0	13.3%	2	6.7%	1	0	
中国	122	47.5%	58	31.1%	38	13.9%	17	9.0%	11	13.9%	17	18.0%	22	3	
香港	23	43.5%	10	47.8%	11	13.0%	3	26.1%	6	39.1%	9	0.0%	0	0	
台湾	73	37.0%	27	37.0%	27	12.3%	9	0.0%	0	42.5%	31	4.1%	3	2	
韓国	36	33.3%	12	33.3%	12	8.3%	3	8.3%	3	61.1%	22	13.9%	5	3	
タイ	10	80.0%	8	30.0%	3	0.0%	0	0.0%	0	20.0%	2	0.0%	0	0	
シンガポール	16	6.3%	1	12.5%	2	18.8%	3	0.0%	0	50.0%	8	31.3%	5	0	
マレーシア	12	25.0%	3	33.3%	4	0.0%	0	0.0%	0	25.0%	3	33.3%	4	0	
その他	139	54.7%	76	18.0%	25	4.3%	6	13.7%	19	33.1%	46	7.9%	11	0	
加入	442	54.3%	240	35.3%	156	7.2%	32	7.5%	33	24.7%	109	11.8%	52	6	
非加入	122	18.0%	22	18.9%	23	9.8%	12	16.4%	20	57.4%	70	15.6%	19	4	

<特徴>

- ・全体では、医療機関の探す方法として、「加入している保険会社」(46.5%)、「宿泊施設のプロント等」(31.7%)、「インターネット」(31.7%)の順に高い。
- ・「加入している保険会社」の比率が他の選択肢よりも高い国籍は、フランス、中国、タイ。
- ・「宿泊施設のプロント等」の比率が他の選択肢よりも高い国籍は、オーストラリア、イギリス、香港。
- ・「インターネット」の比率が他の選択肢よりも高い国籍は、アメリカ、台湾、韓国、シンガポール。

↑ ○ 医療機関の情報について、宿泊施設に提供するとともに、インターネットで検索しやすくする対策が有効

③-2. 医療機関に行った際の費用はどのように支払いますか。【③で「3. 医療機関を受診する」と回答した方】

	サンプル数	医療機関に現金で支払う		医療機関にクレジットカードで支払う		保険会社を通して支払う		その他		不明	
		比率	実数	比率	実数	比率	実数	比率	実数		
全体	564	16.0%	90	52.0%	293	31.2%	176	0.2%	1	0.7%	4
アメリカ	33	3.0%	1	24.2%	8	60.6%	20	0.0%	0	12.1%	4
オーストラリア	40	7.5%	3	52.5%	21	40.0%	16	0.0%	0	0.0%	0
フランス	45	4.4%	2	42.2%	19	53.3%	24	0.0%	0	0.0%	0
イギリス	15	33.3%	5	40.0%	6	26.7%	4	0.0%	0	0.0%	0
中国	122	9.0%	11	65.6%	80	25.4%	31	0.0%	0	0.0%	0
香港	23	26.1%	6	52.2%	12	21.7%	5	0.0%	0	0.0%	0
台湾	73	30.1%	22	38.4%	28	31.5%	23	0.0%	0	0.0%	0
韓国	36	27.8%	10	69.4%	25	2.8%	1	0.0%	0	0.0%	0
タイ	10	0.0%	0	100.0%	10	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
シンガポール	16	0.0%	0	56.3%	9	43.8%	7	0.0%	0	0.0%	0
マレーシア	12	0.0%	0	75.0%	9	25.0%	3	0.0%	0	0.0%	0
その他	139	21.6%	30	47.5%	66	30.2%	42	0.7%	1	0.0%	0
加入	442	75.4%	68	49.3%	218	35.1%	155	0.2%	1	0.0%	0
非加入	122	76.0%	22	61.5%	75	17.2%	21	0.0%	0	3.3%	4

<特徴>

- ・全体では、支払い方法として、「クレジットカードで支払う」(52.0%)と「保険会社を通して支払う」(31.2%)で8割以上を占める。
- ・「クレジットカードで支払う」の比率が他の選択肢よりも高い国籍は、オーストラリア、イギリス、中国、香港、台湾、韓国、タイ、シンガポール、マレーシア。
- ・「保険会社を通して支払う」の比率が他の選択肢よりも高い国籍は、アメリカ、フランス。

④. 今回の旅行を含めて、これまで日本を旅行中に病氣やケガのため医療機関を受診したことはありませんか。

		サンプル数	はい	いいえ
全体	比率		4.1%	95.9%
	実数	1,099	45	1,054
加入	比率		3.8%	96.2%
	実数	838	32	806
非加入	比率		5.0%	95.0%
	実数	259	13	246

<特徴>

・全体では、「受診したことがある」と回答した人数は45人で、受診した比率は4.1%

- ◆観光庁「訪日外国人旅行者の医療に関する実態調査」(H29年3月)
- 調査対象:成田国際空港・東京国際空港・関西国際空港を訪れた訪日外国人
- 回答数:3,383件
- 調査目的:訪日外国人が不慮の怪我・病氣になっても安心して日本の医療サービスを受入れる受入環境を整えるため、訪日外国人の保険加入状況及び医療受診を把握する

<調査結果の抜粋>

日本滞在中に怪我・病氣に罹患した訪日外国人は6% うち、医療機関を受診したのは11%

④-1. 受診時に困ったことはありませんか。【④で「1. はい」と回答した方】(複数選択可)

	サンプル数	言葉が通じる スタッフが いなかった	受付、問 診表や院 内表示が 読めな かった	宗教や文 化に配慮 した対応 体制が不 十分だっ た	費用や支 払い方法 が分から なかった	困ったこ とはない
全体	比率 実数	60.0% 45	15.6% 7	0.0% 0	15.6% 7	15.6% 7
アメリカ	比率 実数	100.0% 3	100.0% 3	0.0% 0	0.0% 0	0.0% 0
フランス	比率 実数	50.0% 4	0.0% 2	0.0% 0	50.0% 2	0.0% 0
中国	比率 実数	66.7% 9	0.0% 6	0.0% 0	33.3% 3	0.0% 0
香港	比率 実数	100.0% 1	0.0% 1	0.0% 0	0.0% 0	0.0% 0
台湾	比率 実数	33.3% 3	0.0% 1	0.0% 0	0.0% 0	66.7% 2
タイ	比率 実数	60.0% 10	40.0% 6	0.0% 4	0.0% 0	0.0% 0
その他	比率 実数	53.3% 15	0.0% 8	0.0% 0	13.3% 2	33.3% 5
加入	比率 実数	75.0% 32	6.3% 24	0.0% 2	6.3% 2	12.5% 4
非加入	比率 実数	23.1% 13	38.5% 3	0.0% 5	38.5% 5	23.1% 3

<特徴>

- ・全体として、受診時に困ったこととして、「言葉が通じるスタッフがいないかった」(60.0%)、「受付、問診表や院内表示が読めなかった」(15.6%)、「費用や支払い方法が分からなかった」(15.6%)の順に高い。



⇒ 医療機関に対して、外国語の対応体制を充実させる対策が必要

2 訪日外国人の搬送体制・現場での対応について

○調査対象:平成29年1月1日～12月31日の期間に受け入れた訪日外国人

2-1 訪日外国人の搬送実績(件/年)

地域	件数
京都市	503
京都市以外	28
計	531

<特徴>

- ・府内全域の訪日外国人の搬送実績の94.7%は京都市内
- ・京都市内に次いで搬送実績が多かったのは宇治市内で7件/年

2-2 訪日外国人の搬送体制について

設問	選択肢	回答数	比率	
1 119番通報で対応可能な言語(複数回答可) <母数:消防本部数>	英語	8	53.3%	
	中国語	8	53.3%	
	韓国語	8	53.3%	
	ポルトガル語	8	53.3%	
	スペイン語	2	13.3%	
	フランス語	1	6.7%	
	ロシア語	1	6.7%	
	ドイツ語	0	0.0%	
	イタリア語	0	0.0%	
	その他	フィリピン語(タガログ語)	5	33.3%
2 119番通報に連絡してきた方で、多かったと思われる方(3つを選択) <母数:消防本部数>	同行者	5	33.3%	
	本人	4	26.7%	
	通行人	3	20.0%	
	観光施設	3	20.0%	
	警察	2	13.3%	
	観光案内所	0	0.0%	
	その他	添乗員	2	13.3%
		勤務先・旅客船関係者	1	6.7%
	友人	1	6.7%	
	家族	1	6.7%	
3 119番通報の対応ツール(複数回答可) <母数:消防本部数>	多言語通訳体制	1	6.7%	
	救急ボイストラ	1	6.7%	
	多言語対応指差しシート	0	0.0%	
	その他	通信指令台の外国語音声対応機能(通信を受けた者が主導で一定の定型文音声を再生)	5	33.3%
		多言語の対応冊子	1	6.7%
4 119番通報の対応時に困ったこと(複数回答可) <母数:消防本部数>	医療通訳体制が不十分	1	6.7%	
	外国人受入可能医療機関が分からない	0	0.0%	
	その他	通報者側に日本語を話せる人が居ない場合、対応に苦慮	3	20.0%
		詳細情報(救護場所の特定や症状等)の取得が困難	2	13.3%

<特徴>

- ・119番通報で対応可能な言語は、英語、中国語、韓国語、ポルトガル語が最多(8機関)で、次にフィリピン語(タガログ語)が多い(5機関)。
- ・119番通報に連絡してきた方の比率は、「同行者」が最も高く(33.3%)、次に「本人」(26.7%)、続いて「通行人」、「観光施設」が高い(20.0%)。
- ・119番通報の対応ツールは、「通信指令台の外国語音声対応機能」(5機関)が最多で突出している。
- ・119番通報の対応時に困ったことは、「通報者側に日本語を話せる人が居ない場合、対応に苦慮」(3機関)が最多で、次に「詳細情報の取得が困難」(2機関)が多い。

2-3 現場での対応について

設問	選択肢	回答数	比率	
1 救急現場で対応可能な言語(複数回答可) <母数:消防本部数>	英語	11	73.3%	
	中国語	11	73.3%	
	韓国語	11	73.3%	
	ポルトガル語	11	73.3%	
	スペイン語	9	60.0%	
	ロシア語	8	53.3%	
	フランス語	6	40.0%	
	ドイツ語	6	40.0%	
	イタリア語	5	33.3%	
	その他	タイ語	3	20.0%
		インドネシア語	3	20.0%
		ネパール語	3	20.0%
		ベトナム語	3	20.0%
		ハンガリー語	3	20.0%
		ミャンマー語	2	13.3%
		オランダ語	2	13.3%
		クメール語	3	20.0%
		トルコ語	2	13.3%
		ヒンディー語	2	13.3%
		ポーランド語	2	13.3%
		マレー語	2	13.3%
		フィリピン語(タガログ語)	1	6.7%
		アラビア語	1	6.7%
ラオス語		1	6.7%	
ルーマニア語	1	6.7%		
ペルシア語	1	6.7%		
ブルガリア語	1	6.7%		
デンマーク語	1	6.7%		
2 現場での対応ツール(複数回答可) <母数:消防本部数>	多言語対応指差しシート	12	80.0%	
	救急ボイストラ	5	33.3%	
	多言語通訳体制	2	13.3%	
3 搬送先をどのように選択(複数回答可) <母数:消防本部数>	傷病の状況	14	93.3%	
	距離	6	40.0%	
	対応言語	0	0.0%	
4 訪日外国人への対応で困ったこと(複数回答可) <母数:消防本部数>	問診票等の外国語対応不足	7	46.7%	
	外国人受入搬送先の対応可能な言語が不明	2	13.3%	
	医療通訳体制が不十分	1	6.7%	
	宗教や異文化の対応体制が不十分	0	0.0%	
	その他	コミュニケーションに時間がかかり、処置や病院の選定に時間がかかる	2	13.3%
救急車積載の携帯電話で多言語翻訳のアプリダウンロード不可		1	6.7%	

<特徴>

- ・救急現場で対応可能な言語は、英語、中国語、韓国語、ポルトガル語が最多(11機関)で、次にスペイン語が多い(9機関)。
- ・現場での対応ツールは、「多言語対応指差しシート」が最多(12機関)で突出している。
- ・搬送先の選択の判断基準として、「対応言語」を選択している機関はない。
- ・訪日外国人への対応で困ったことは、「問診票等の外国語対応不足」(7機関)が最多で突出している。

3 京都健康医療よろずネットについて

設 問	選 択 肢	回 答 数	比 率
1 京都健康よろずネットに、各医療機関の対応言語の表示項目があること <母数:消防本部数>	知っている	2	13.3%
	知っているが活用していない	5	33.3%
	よく知らない	8	53.3%
2 必要と思われる取組(複数回答可) <母数:消防本部数>	周知の拡大	14	93.3%
	<周知先>		
	宿泊施設	12	80.0%
	観光案内所	11	73.3%
	訪日外国人	9	60.0%
	観光施設	1	6.7%
	QRコード作成等、頒布の利便性向上	11	73.3%
	対応言語の拡大	9	60.0%
掲載情報の充実	1	6.7%	

<特徴>

- ・京都健康医療よろずネットに、各医療機関の対応言語の表示項目があることについて、「よく知らない」(8機関)が最多で、次に「知っているが活用していない」(5機関)となっており、府内の消防本部の87%で活用がされていない。
- ・必要と思われる取組は、ほとんどの消防本部が「周知の拡大」(14機関)と回答し、周知先は「宿泊施設」(12機関)、「観光案内所」(11機関)、「訪日外国人」(9機関)の順となっている。また、「QRコード作成等、頒布の利便性向上」(11機関)や「対応言語の拡大」(9機関)も必要という回答が多い。

【宿泊施設を対象とした調査結果】

資料3

○施設形態

施設形態	対象数	未着数	回答数	回答率	
旅館	598	48	114	20.7%	
ホテル	286	7	109	39.1%	
	リゾートホテル	—	—	18	—
	ビジネスホテル	—	—	57	—
	シティホテル	—	—	34	—
簡易宿所	3,121	256	499	17.4%	
会社・団体の宿泊所	7	0	7	100.0%	
民泊	178	36	56	39.4%	
合計	4,190	347	785	20.4%	

2. 外国人宿泊客の対応状況について

○対象期間：平成29年1月1日～12月31日の期間に受け入れた外国人宿泊客

2-1 外国人宿泊客の国籍

設問	選択肢	回答数	比率	
外国人宿泊客の国籍 (上位3つを選択) <母数:回答施設数>	中国	496	63.2%	
	台湾	279	35.5%	
	米国	263	33.5%	
	韓国	138	17.6%	
	豪州	134	17.1%	
	香港	124	15.8%	
	仏国	86	11.0%	
	英国	57	7.3%	
	シンガポール	21	2.7%	
	タイ	12	1.5%	
	マレーシア	8	1.0%	
	その他	ドイツ	6	0.8%
		イタリア	5	0.6%
		スペイン	4	0.5%
		ニュージーランド	2	0.3%
		スイス	1	0.1%
		オランダ	1	0.1%
		カナダ	1	0.1%
南アフリカ		1	0.1%	
	フィンランド	1	0.1%	

<特徴>

- ・府内の宿泊施設(4,190施設)に対して調査したところ、347施設(8.3%)が未着となり、785施設(20.4%)から回答があった。
- ・外国人宿泊客の国籍の比率として、中国(63.2%)、台湾(35.5%)、米国(33.5%)の順に高い。

2-2 外国人宿泊客の対応体制について

設問	選択肢	回答数	比率	
対応可能な言語 (複数回答可) <母数:回答施設数>	英語	580	73.9%	
	中国語	218	27.8%	
	韓国語	80	10.2%	
	フランス語	39	5.0%	
	スペイン語	33	4.2%	
	ドイツ語	9	1.1%	
	イタリア語	9	1.1%	
	ポルトガル語	7	0.9%	
	ロシア語	4	0.5%	
	その他	インドネシア語	5	0.6%
		マレー語	3	0.4%
		タイ語	2	0.3%
		ネパール語	1	0.1%
		アラビア語	1	0.1%
		ミャンマー語	1	0.1%
スリランカ語		1	0.1%	
フィンランド語		1	0.1%	
ベルギー語		1	0.1%	
ポーランド語		1	0.1%	
オランダ語	1	0.1%		
医療情報マニュアルの有無 <母数:回答施設数>	あり	218	27.8%	
	なし	456	58.1%	
	未回答・不明	111	14.1%	
救急車以外で受入をお願いしている医療機関の有無 <母数:回答施設数>	あり	93	11.8%	
	なし	581	74.0%	
	未回答・不明	111	14.1%	
(救急車以外で受入をお願いしている場合)お願いしている内容 <母数:上記設問で「あり」の施設数>	病院・診療所への外来受診	93	100.0%	
	往診	7	7.5%	
	電話相談	14	15.1%	
ハラル等食事対応 <母数:回答施設数>	対応済み	59	7.5%	
	未対応	562	71.6%	
	未回答・不明	164	20.9%	

<特徴>

- ・対応可能な言語の比率は、英語(73.9%)が突出して高く、中国語(27.8%)、韓国語(10.2%)の順に高い。
- ・医療情報マニュアルは58.1%の宿泊施設が「なし」と回答。
- ・救急車以外で受入をお願いしている医療機関について、74.0%の宿泊施設が「なし」と回答。
- ・ハラル等の食事への対応について、71.6%の宿泊施設が未対応。



○ 訪日外国人が医療機関を探す方法として「宿泊施設のフロント等」が高い比率を占める一方、宿泊施設の対応体制は整っていないというギャップがあり、対策が必要。

2-3 外国人宿泊客からの医療情報の問合せ

設問	選択肢	回答数	比率	
外国人宿泊客からの医療情報の問合せ件数	件/年	1,672	-	
※回答施設当たりの平均問合せ件数		2.13	-	
問合せに対応した言語 (複数回答可) <母数:回答施設数>	英語	279	35.5%	
	中国語	89	11.3%	
	韓国語	16	2.0%	
	フランス語	15	1.9%	
	スペイン語	8	1.0%	
	イタリア語	2	0.3%	
	ロシア語	2	0.3%	
	ドイツ語	1	0.1%	
	ポルトガル語	1	0.1%	
	その他	マレー語	2	0.3%
問合せ内容 (複数回答可) <母数:回答施設数>	体調不良など病気	202	25.7%	
	薬局に関する質問	130	16.6%	
	怪我など外傷	77	9.8%	
	医療機関に関する質問	68	8.7%	
	救急車の手配依頼	57	7.3%	
	その他	近医へ付き添い対応	1	0.1%
対応時の課題 (複数回答可) <母数:回答施設数>	外国人受入可能医療機関が分からない	162	20.6%	
	説明用資料の外国語対応不足	107	13.6%	
	宗教や異文化の対応体制が不十分	94	12.0%	
	その他	英語対応できるHPが少ない	4	0.5%
		医療機関・薬局で外国語で(電話等で)対応して欲しい	3	0.4%
		受け入れてくれる医療機関が少ない	3	0.4%
		薬剤成分に対する質問対応	2	0.3%
		語学力不足	2	0.3%
		外国語対応HPを表示するPCが遠い	1	0.1%
		大規模な病院の内科・歯科情報が少ない	1	0.1%
		受診終了迄付き添いの要否の判断が困難	1	0.1%
保険・クレジットなど支払い方法についての情報	1	0.1%		

<特徴>

- ・問い合わせ内容の比率は、「体調不良など病気」(25.7%)が高く、次いで「薬局に関する質問」(16.6%)が高い。
- ・対応時の課題の比率は、「外国人受入可能医療機関が分からない」(20.6%)が2割を占めている。

3.京都健康医療よろずネット等について

設問	選択肢	回答数	比率	
京都健康医療よろずネット をご存じですか <母数:回答施設数>	知っている	41	5.2%	
	知っているが活用していない	54	6.9%	
	よく知らない	586	74.6%	
	不明・未回答	104	13.2%	
課題やあれば便利だと思う 取組(複数回答可) <母数:回答施設数>	周知の拡大	150	19.1%	
	<周知先>			
	観光案内所	100	12.7%	
	医療機関	90	11.5%	
	訪日外国人	87	11.1%	
	消防機関	40	5.1%	
	(その他)宿泊施設	5	0.6%	
	交通機関	2	0.3%	
	対応言語の拡大	68	8.7%	
	QRコード作成等、頒布の利便性向上	48	6.1%	
掲載情報の充実 <具体的な意見>休日ERで英会話対応可能の医 師、マップ情報・行き案内、宿泊施設向けのパンフ レット		18	2.3%	
	その他	広報手段の拡大(広報誌、テレビ 放送、公共交通機関の吊広告、 施設ホームページの使いやすい バナー)	4	0.5%
		保険証不携帯の受診方法	1	0.1%
外国人宿泊客への対応に 参考にされる情報(複数回 答可) <母数:回答施設数>	地元の医療機関の個別ホームページ	296	37.7%	
	地元の観光協会や行政機関の連絡先	211	26.9%	
	京都健康医療よろずネット	126	16.1%	
	その他	インターネット検索	18	2.3%
		病院に直接連絡して指示を受ける	6	0.8%
		地元の外国語を話せる方	1	0.1%
近隣の方から情報提供		1	0.1%	

<特徴>

- ・京都健康医療よろずネットについて、「よく知らない」(74.6%)の比率が突出して高い。
- ・「課題やあれば便利だと思う取組」として、「周知の拡大」(19.1%)の比率が突出して高く、周知先は「観光案内所」(12.7%)、「医療機関」(11.5%)、「訪日外国人」(11.1%)の順に高い。
- ・外国人宿泊客への対応に参考にする情報の比率は「地元の医療機関の個別ホームページ」(37.7%)、「地元の観光協会や行政機関の連絡先」(26.9%)の順に高い。

【医療機関を対象とした調査結果】

資料4

厚労省調査票A、Cの回答状況	提出済み	78	72.9%
	未提出	29	27.1%
	不明・未回答	7	6.5%

2. 訪日外国人の受診行動等

○調査対象：平成29年10月1日～平成30年9月30日の期間に受け入れた外国人患者

2-1 訪日外国人の受診行動、対応について

設問	選択肢	回答数	比率	
訪日外国人患者の受診の有無 <母数：回答のあった病院数>	受診あり	48	42.1%	
	受診なし	63	55.3%	
	不明・未回答	3	2.6%	
(「受診あり」と回答した場合)				
事前の問い合わせの割合(回答のあった病院の平均)		2.9	割	
問合せ・連絡をしてきた者 (上位3つの選択肢を選択) <母数：回答のあった病院数>	宿泊施設	21	18.4%	
	同行者	20	17.5%	
	本人	16	14.0%	
	保険会社	10	8.8%	
	旅行代理店・ツアーガイド	9	7.9%	
	消防機関	5	4.4%	
	観光案内所等	4	3.5%	
	通行人	0	0.0%	
	その他	精神救急センター・保健所	1	0.9%
	訪日外国人が貴院に来院する際に参考にした媒体(複数回答可) <母数：回答のあった病院数>	宿泊施設	10	8.8%
在日の友人・家族等の情報		7	6.1%	
旅行ガイドブック・Web情報		7	6.1%	
保険会社の情報		5	4.4%	
観光案内所等		2	1.8%	
カード会社の情報		1	0.9%	
消防機関の情報		1	0.9%	
通行人の情報		1	0.9%	
京都健康医療よろずネット		0	0.0%	
その他		患者が受診した先の医療機関(二次的受診)	1	0.9%
		精神救急情報センター	1	0.9%
	付属する職場の情報	1	0.9%	
訪日外国人患者への対応で困ったこと (複数回答可) <母数：回答のあった病院数>	医療通訳体制が不十分	37	32.5%	
	受付、問診票や院内表示の外国語対応不足	35	30.7%	
	未収金が発生	13	11.4%	
	受入可能な医療機関の紹介先が不明	11	9.6%	
	宗教や異文化の対応体制が不十分	9	7.9%	
	その他	マナーが悪い(順番が待てない、携帯の充電を希望する)	3	2.6%
		罹患していないが日本の薬剤が欲しいと希望	1	0.9%
	日本の医療報酬制度を理解してもらえず高いと随法的にクレーム	1	0.9%	
非対応のクレジットカードを提示の有無 <母数：回答のあった病院数>	提示あり	9	7.9%	
	提示なし	45	39.5%	
	不明・未回答	60	52.6%	

2-2 ハラル等の食事への対応

設問	選択肢	回答数	比率
ハラル等の食事への対応 <母数：回答のあった病院数>	対応済み	15	13.2%
	未対応	86	75.4%
	不明・未回答	13	11.4%

<特徴>

- ・訪日外国人患者の受診があったと回答した病院は48機関で、回答のあった病院の42.1%。
- ・「訪日外国人が貴院に来院する際に参考にした媒体」は、「宿泊施設」が最多(8.8%)。
- ・「訪日外国人患者への対応で困ったこと」の比率は、「医療通訳体制が不十分」(32.5%)が最も高く、次いで「受付、問診票や院内表示の外国語対応不足」(31%)が高い。
- ・ハラル等の食事への対応済みの病院は15機関(13%)



- 宿泊施設に対して、医療機関情報を周知する対策の実施が有効
- 医療機関に対して、外国語の対応体制を充実する対策が必要

3. 京都健康医療よろずネット

設問	選択肢	回答数	比率
京都健康よろずネットに各医療機関の対応言語の表示項目があることをご存じですか <母数:回答のあった病院数>	知っている	12	10.5%
	知っているが活用していない	31	27.2%
	よく知らない	62	54.4%
	不明・未回答	9	7.9%
必要と思われる取組(複数回答) <母数:回答のあった病院数>	周知の拡大	94	82.5%
	<周知先>		
	宿泊施設	83	72.8%
	観光案内所	78	68.4%
	消防機関	27	23.7%
	訪日外国人	26	22.8%
	(その他)交通機関	2	1.8%
	市役所窓口	1	0.9%
	インターネット・旅行者用ガイドブック	1	0.9%
	警察	1	0.9%
	対応言語の拡大	47	41.2%
	QRコード作成等、頒布の利便性向上	32	28.1%
	掲載情報の充実 <具体的な意見>運用する外国語・カード等現金以外の決済の可否、医療機関の専門領域を掲載	8	7.0%
	その他		
見やすく簡単に検索できるようにした方がいい	1	0.9%	
自動音声による変換	1	0.9%	

<特徴>

- ・京都健康よろずネットの各医療機関の対応言語の表示項目の認知について、「よく知らない」が最多(54%)で、次に「知っているが活用していない」(27%)となっており、8割以上で活用がされていない。
- ・必要と思われる取組は、ほとんどの病院が「周知の拡大」(82%)と回答し、周知先は「宿泊施設」(73%)、「観光案内所」(68%)の順となっている。

アンケート調査結果から導かれる対策の方向性について

1 訪日外国人を対象とした調査結果

- 訪日外国人の疾病への対応については、医療機関と薬局に対する対策が有効
- 医療機関の情報について、宿泊施設に提供するとともに、インターネットで検索しやすくする対策が有効
- 医療機関に対して、外国語の対応体制を充実する対策が必要

2 消防本部を対象とした調査結果

- 多言語対応指差しシートが有効であり、他の場面で活用できないか

3 宿泊施設を対象とした調査結果

- 訪日外国人が医療機関を探す方法として「宿泊施設のフロント等」が高い比率を占める一方、宿泊施設の対応体制は整っていないというギャップがあり、対策が必要

4 医療機関を対象とした調査結果

- 宿泊施設に対して、医療機関情報を周知する対策の実施が有効
- 医療機関に対して、外国語の対応体制を充実する対策が必要

5 当面の対策案について

- 京都健康よろずネットの周知に係る情報媒体（A4 チラシ、カードチラシ、QR コード入りパネル 等）の作成
- 観光パンフレット等への京都健康よろずネットの情報掲載（QR コードや URL の掲載 等）
- 「外国人のための医療ガイドブック」（京都府国際課作成）の増刷
- 各医療機関等における訪日外国人の受診対応のためのガイドラインの作成
- 訪日外国人が医療機関を受診した際のトラブル等に関する医療機関等向け相談窓口の設置

今後の予定について

スケジュール

◆第1回調整会議（8月31日）

外国人患者受入に係る課題の整理、実態把握のためのアンケート調査の検討について

◆第2回調整会議（11月30日）

アンケート調査の結果報告（中間）、結果を踏まえた意見交換について

◆第3回調整会議（2月）

アンケート調査の結果報告（最終）、結果を踏まえた受入体制に係る対策案について

※国実施の医療機関を対象とした調査結果のまとめ

◆第4回調整会議（3月）

今後の受入体制に係る取組の進め方について

厚生労働省「第1回 訪日外国人旅行者等に対する医療の提供に関する検討会」
配付資料（抜粋）

(1) 各都道府県に求められる取組（総論）

- 我が国全体で観光立国が推進される中で、各都道府県においても外国人観光客の増加による地域の活性化に向けてそれぞれ取り組みが進められているが、一方で訪日外国人が安心・安全に医療を受け、帰国できる体制の整備についても併せて取り組むことが求められている。
- このためには、各都道府県の衛生部局が観光部局等と連携し、また、管内の市町村や医師会・関係団体とも連携して、2019年のラグビーワールドカップの開催や2020年のオリンピック・パラリンピックの開催も念頭に体制づくりを進めることが必要。
- 政府としても取り組みを推進するために、6月14日に「訪日外国人に対する適切な医療等の確保に関するワーキンググループ」が開催されたところであり、厚生労働省としても自治体・関係団体と協力して、訪日外国人・在留外国人が安心・安全に医療機関を受診できる体制づくりに向けて取り組みを推進することとしている。
- このような状況を踏まえ、都道府県が、それぞれの地域の実情に応じた具体的取り組みを進めることが求められる。検討課題としては、例えば次のようなものが考えられる。
 - ① それぞれの地域における実態・課題等の把握
 - ② 外国人の受入が可能な医療機関の選定
 - ③ 外国人を受け入れる医療機関の受入体制の整備
 - ④ 外国人を受け入れる医療機関向けの医療通訳や翻訳機器等の活用体制の整備
 - ⑤ 外国人を受け入れる医療機関における円滑な支払の確保に向けた体制の整備
 - ⑥ 外国人を受け入れる医療機関に関する関係者間での情報共有
 - ⑦ 地域の医療機関・行政の担当窓口の体制整備
 - ⑧ 地域の行政・医療機関・消防・旅行・宿泊等の関係者による連携体制の構築 など
- 厚生労働省は、2018年6月の都道府県衛生部長会において、都道府県に対して、以下の取組を依頼すると予告したところ「地域における外国人患者の受入拠点となる医療機関」を選定すること
 - 都道府県毎に、「重症例を受け入れ可能な医療機関」を1カ所以上選定
 - 外国人観光客が多い二次医療圏では、「軽症例の受け入れ可能な医療機関」を選定



(2) 外国人患者を受入れる医療機関の像

- 外国人患者を受入れる医療機関への支援や、認証・推奨・登録は、複数の省庁・団体が行っている。
- これらの医療機関の情報は一元化されておらず、医療機関や地方自治体からはわかりづらいという声が寄せられてきた。また、医療機関の外国人患者受入に対する姿勢に、差があるのではないかとの声がある。
- 医療機関や地方自治体のみならず、外国人患者、観光・宿泊事業者、地域の住民等がわかりやすい形で情報提供する必要。

これまでの枠組み

今後のあるべき像

実施主体	事業・リスト名	事業の内容	対象患者	医療機関数(降順)
① 観光庁	訪日外国人旅行者受入医療機関リスト	都道府県に医療機関の選定を依頼し、訪日外国人旅行者が潜在中の病気やケガ等の際に、安心して受診できる体制が整備された医療機関をリスト化。日本政府観光局のホームページを通して情報を発信する。ホームページでは対応言語、診療科目、使用可能なクレジットカード等で医療機関の検索が可能	訪日外国人旅行者	1,255
② 厚生労働省	外国人患者受入環境整備推進事業	医療機関への医療通訳者・コーディネーターの配置や、院内体制整備(院内案内表示や院内資料の多言語化)への財政的支援	外国人患者	111
③ 一般社団法人日本医療教育財団	外国人患者受入医療機関認証制度(JMIP)	在留、訪日外国人へ安心・安全な医療を提供するための環境が整備された医療機関を認証する。	在留外国人 訪日外国人	48
④ 一般社団法人Medical Excellence JAPAN(MEJ)	ジャパンインターナショナルホスピタルズ(JIH)	日本の高度な医療を目的に、医療ビザを取得し渡航する外国人患者の受入に意欲があり、適切な受入体制を整備した医療機関を推奨し、海外に発信する。	治療・健診を目的に渡航する外国人患者	45

- 都道府県が主体的になり、関係者を交えながら医療機関を推薦
- 登録された医療機関は、わかりやすい形で公開。
- 歯科診療所も対象。

(3) 平成31年「外国人患者の受入拠点となる医療機関」の基準(案)

事務局案は以下のとおり

- (1) 都道府県単位の「重症例を受入可能な医療機関」
- ① 都道府県の医療計画における二次以上の救急医療機関
 - ② 言語対応: 多言語での対応が可能であること
 - ※ 言語の種類は医療機関の実情にあわせて設定するものとする
 - ※ 医療通訳者、電話通訳、デバイス等の形式は問わない
- (2) 2次医療圏単位の「軽症例を受入可能な医療機関」
- ① 対象となる医療圏
 - ア ラグビーW杯またはオリンピック・パラリンピックの開催地を含む医療圏
 - イ 訪日外国人観光客の多い医療圏
 - ウ 在留外国人が多い医療圏
 - エ その他、都道府県が指定する医療圏
 - ② 診療時間: 特に制限を設けない
 - ③ 診療科: 特に制限を設けない
 - ④ 言語対応: 多言語での対応が可能であること
 - ※ 言語の種類は医療機関の実情にあわせて設定するものとする
 - ※ 医療通訳者、電話通訳、デバイス等の形式は問わない

3

(4) スケジュール(案)

スケジュール(案)は以下のとおり

2018年度中

- 厚生労働省より各都道府県へ、「地域における外国人患者の受入拠点となる医療機関」の推薦を依頼
- 厚生労働省より各都道府県へ、「訪日外国人に対する医療に係る医療機関調査」の結果(一部)を共有
- 各都道府県より厚生労働省へ、「地域における外国人患者の受入拠点となる医療機関」を報告

2019年4月以降

- 厚生労働省は、各都道府県からの報告結果をとりまとめて公表

4

平成30年度第1回 外国人患者受入体制モデル構築事業調整会議

協議概要

- 1 開催日時 平成30年8月31日(金) 午後2時～4時
- 2 開催場所 京都ガーデンパレス「葵」
(京都市上京区烏丸通下長者町上ル龍前町605番地)
- 3 構成団体からの出席者 19名
- 4 協議概要

議 事

- (1) 外国人患者受入体制モデル構築事業調整会議について 【資料1】
- (2) 訪日外国人患者受入体制の現状について
 - ・ 訪日外国人の状況について 【資料2】
 - ・ 国、東京都が実施したアンケートについて 【資料3】
 - ・ 訪日外国人の増加に関する国、府、各団体の取組について 【資料4】
- (3) 外国人患者の実態把握のためのアンケート調査について
 - ・ アンケート調査票について 【資料5】
 - ・ 意見交換
- (4) その他

< 「(1) 外国人患者受入体制モデル構築事業調整会議について」の主な意見 >

- ・ 意見等なし

< 「(2) 訪日外国人患者受入体制の現状について」の主な意見 >

- ・ 診療体制の整った病院だけでなく、開業医1人で診療をしている診療所、特にホテルに近い診療所に多くの外国人患者が受診していることも課題。
- ・ 社会がグローバル化しているので、医療機関は言語の問題で診療するしないを判断せず、全ての外国人患者を受け入れるべき。
- ・ 医療機関での訪日外国人の対応は増加しており、スマホ等で対応していると聞いている。
- ・ 入院患者に対しては24時間、夜間でも対応が必要だが、通訳サービスの有無などコミュニケーションの問題を解消する方法を見つけるのは難しい。
- ・ 自分で意思を発しづらい小児、特に乳児への対応は難しい。また、医療の詳しい説明を理解できるかも気がかり。
- ・ 訪日外国人で観光地の混雑等が発生しており、受入環境の整備の重要性が高まっている。
- ・ 訪日外国人向け海外旅行保険について、損害保険会社からほとんど売れてないと聞いている。そもそも保険に入らない文化の国の方に加入していただくことが困難。

- ・最近では小さなホテル等でも国際会議が開催されており、国際会議の開催に慣れていない施設に対し、関係団体・行政等が連携して訪日外国人向けの各種取組の周知等を図ることが重要。
- ・訪日外国人については言葉の壁だけでなく、未収金対策やハラル等の食事の問題も重要。
- ・訪日外国人はトラブルに遭われた場合、真っ先に宿泊施設のフロントに相談する。宿泊施設は京都市作成の外国人受入医療機関の冊子などの資料で対応しているが、小さな旅館などは外国語の対応が厳しい。外国人受入医療機関のハザードマップ的な資料があれば、訪日外国人に確実に対応できる。
- ・救急現場の声によると、外国人への対応は「電話通訳サービス」、「四ヶ国語対応シート」、「多言語音声翻訳アプリ」で概ね可能。最も簡便で使い勝手が良いのが「四ヶ国語対応シート」である。
- ・訪日外国人が怪我をした場合に、1人しかいない観光協会の外国人職員が対応に専従せざるを得なかったため非常に困った。行政でできることは限界があるので、訪日外国人自身がしていただけることを情報発信することが重要。

<「(3) 外国人患者の実態把握のためのアンケート調査について」の主な意見>

- ・医療機関への外国人医療の調査では「外国人」の定義をしっかりと規定することが重要。医療機関は受診の際に訪日外国人や在留外国人という区分で登録しておらず、特定が難しい。
- ・宿泊施設のの違いで外国人の支払い状況が違っていると感じている。できれば、受診者の宿泊している施設の種類ごとに支払い状況を把握していただきたい。
- ・外国人患者の使うクレジットカードの種類等の支払方法を詳しく把握する必要がある。医療機関は中国系のクレジットカードになかなか対応していないのでアンケート項目に含めていただきたい。
- ・医療機関は訪日外国人・在日外国人等を区分していないので、調査に当たっては医療機関に負担のかからないようお願いしたい。
- ・外国人の未収金は、国民保険に加入している日本人が未収金になる場合と条件が異なるため、未収率が日本人より多いか、どう違うのかも丁寧に把握する必要がある。
- ・医療機関ごとに受診者全体に外国人が占める割合、訪日外国人の受診者の未収率（と日本人の受診者の未収率）を把握してはどうか。
- ・訪日外国人へのアンケート調査について、旅行保険の加入時期と、加入した理由・加入しない理由を把握してはどうか。

<「(4) その他」についての主な意見>

- ・行政機関に対しては、医療機関における窓口対応への支援や、院内の橋渡し等を担う医療コーディネーターの養成への支援をお願いしたい。
- ・感染症（麻疹等）に感染した外国人が京都に来ているので対応を検討していただきたい。違法な民泊での感染症発生を危惧する。